

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

エンパワメントスクール(ES)としての役割を十分に果たしつつ、成城高校独自の強みを活かし、自律し自立することで社会貢献できる人材を育成する学校

- 学びを大切に、基礎基本の学力充実と夢実現の発展的学力の養成。
- 規範意識を身に着け、自己と他者を大切にできる人間育成と安心・安全な学校。
- 自己有用感に満ち、社会貢献できる知識とスキルの習得。

2 中期的目標

1 成城高校がめざすESとしての成果をあげるための取組み

(1) ESの基本である学び直し学習を着実に、発展的学力や知識習得ための取組み

ア 「授業改善プロジェクト」を立ち上げ、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための取組みを行い、成城スタンダードを確立する。

中京大学の授業改革研究者との連携を継続し「学習課題」を明確に示し、その成果を実感できる授業を実施する。

*生徒向け学校教育自己診断における授業満足度（平成29年度は38.4%）を引き上げ、平成30年度は50%、平成32年度に70%にする。

イ 成城みらいプロジェクトをさらに充実させ、教頭・首席中心のユニットでのミーティングを中心に、初任者を含む経験の浅い教員のスキルアップを図る

* 相互の授業見学を積極的に行い、良好な人間関係と授業力向上を目指す。

* 5年後の成城を見据えた新たな取組みを模索し、職員会議に提案する。

ウ ICTを活用した学びの充実

* 全普通教室にホワイトボードを設置し、「電子黒板の一層の有効活用」を研究しさらに進める。また「タブレット端末の活用」を強力に進めることで、居眠り防止等授業への集中度を高める。

* 座学でのICT活用実施者割合を平成30年度は60%とし平成32年度は70%を達成する。

2 高い規範意識で自分と他人を大切に、安全・安心で充実した学校生活の送れる学校づくり

(1) いじめられ経験や不登校経験をもつ生徒への対応

ア 支援コーディネータを核とした支援委員会と、SC及び担任団を中心としたサポートチームの強化

イ いかなるいじめも許さない・見逃さない指導と、生徒の実態に合わせた生徒指導

*いじめアンケートを各学期に実施し、情報収集と相談しやすい環境づくり

*寄り添う心と一層丁寧な指導で、生徒の安全で安心な学習環境を維持する。不登校ゼロをめざす。

(2) 生徒が充実した高校生活を送るための取組み強化

ア 学校生活を大切にさせるための取組み強化

*平成32年度保護者対象学校教育自己診断での「学校に対する満足度」を90%にする。(満足度指数記入欄を設ける)

*平成32年度生徒対象学校教育自己診断で、「学校へ行くのが楽しい」回答を80%にする。

*総遅刻回数・欠席日数とも前年比各10%減を達成する。

*中退率維持（平成29年度は0.8%）

イ 部活動の活性化

*平成30年度、部活動加入率全体75%、1年生85%にする。(平成29年度全体68.9% 1年生73.9%)

ウ 学校環境の整備

*組織の枠組みの見直し…教員の連携強化を図り、学びの充実と生徒の夢実現に取り組む。

*働き方改革…会議のスリム化・定例化。重要性と緊急性の見極め徹底（期日厳守）。

3 進路保障

(1) 基礎学力を身に着け、発展的学力を充実させる。

ア 公開授業・研究協議の維持

*授業公開3回実施。教員相互の授業見学を積極的に行い、毎回レポートを提出。3年後100枚の達成をめざす。

イ 「主体的・対話的で深い学び」の探求・実践・充実

*教育産業が実施する学力診断テスト用い生徒の学力を定点観測し学力向上をはかる。評価指標であるD3の割合を平成30年度も10%減をめざし平成31年度は全体の15%以下を目標とする。

*平成31年度生徒対象学校教育自己診断で「授業が充実している」回答80%とする。(平成29年度は55%)

(2) 希望進路の実現をめざし、高いモチベーションを維持するための取組み

ア 進路指導部主導型の進路指導體制を構築し、卒業時進路未決定者0（ゼロ）実現

*入学当初の進路希望・夢実現に向けて、やる気にさせる取組みを実施

*進路未決定卒業生率を平成29年度以降減少させゼロをめざす。(平成29年度は0.5%)

イ 社会で役立つ資格等を取得するための取組みと、進学に向けた英語、数学、国語の進学講習の充実。

*平成31年度、実用英語検定2級2名、準2級20名、3級50名合格をめざす。

平成29年度は2級1名、準2級2名、3級34名

*平成31年度の資格取得者・検定試験合格者を530名にする。(平成29年度はのべ652名)

4 地域に根差し見守られ、地域に貢献できる学校づくり

(1) 平成31年度入学者選抜志願者確保

ア 「チーム成城」での組織的な情報発信

*中学校訪問150校実施を組織的に取組み強化し、それを維持する。(平成29年190校)

*中学2・3年生徒・保護者・中学校教員等を5回開催し、計800名の参加を集める。

(平成29年度は生徒・保護者向け6回計約792名)

*平成30年度入試入学者の第一志望での入学者数をアンケート調査実施。平成31年度までに95%以上を達成する。

イ 地域に見守られ、地域とともに成長する学校づくり

<p>2 高い規範意識で自分と他人を大切にし、安全・安心で充実した学校生活の送れる学校づくり</p>	<p>(1) いじめられ経験や不登校経験をもつ生徒への対応の充実</p> <p>ア 支援コーディネータを核とした支援委員会と、SC 及び担任団を中心としたサポートチームの強化</p> <p>イ いかなるいじめも許さない・見逃さない指導と、生徒の実態に合わせた生徒指導</p> <p>(2) 生徒が充実した高校生活を送るための取組み強化</p> <p>ア 学校生活を大切にさせるための取組み強化</p> <p>イ 部活動の活性化</p> <p>ウ 学校環境の整備</p>	<p>(1)</p> <p>ア 組織的対応に欠かせない情報共有のため職員会議には近々の事案・事象の報告を行う。</p> <p>イ・式辞及び生徒集会等において常に学校の姿勢を訴えていく。</p> <p>・いじめアンケートを必要に応じて随時行い情報収集に努める。</p> <p>(2)</p> <p>ア・教頭、首席が中心となり初任者対象を中心とした、教師力向上研修を継続実施</p> <p>・初任者育成プロジェクトで研修を重ね、カウンセリング力を高めることで安易な遅刻、欠席早退の防止</p> <p>・アルバイトの制限維持</p> <p>イ・生徒会を充実させ、生徒が中心となって部活動活性化の活動をする。</p> <p>ウ・「ゴミの落ちていない学校」を継続するため校長による巡回と教員への徹底指導継続</p> <p>・生徒の自己有用感を持たせるため、教員自らが積極的に感謝の気持ちを表すことに努める。</p> <p>・組織の枠組みの見直し・・・教員の連携強化を図り、学びの充実と生徒の夢実現に取り組む</p> <p>・働き方改革・・・会議のスリム化・定例化。重要性と緊急性の見極めを徹底し、期日に合わせたセルフコントロールを徹底。(期日厳守)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・いじめが起因する不登校ゼロをめざす。</p> <p>イ</p> <p>・学校教育自己診断における「先生はいじめなど私たちが困っていることについて真剣に対応してくれる」を平成 30 年度 75%とする。</p> <p>・いじめアンケート 3 回実施</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断の保護者の項目に「学校への満足指数」を設け、満足度 70%をめざす。</p> <p>・学校教育自己診断の生徒項目に「成城に入学してよかった」の項目を追加し平成 30 年度は 70%を目標とする。</p> <p>・中退率の維持 (平成 29 年度は 0.8%)</p> <p>・総遅刻回数・欠席日数とも前年比各 10%減を達成する。 (平成 29 年遅刻 1254 回、欠席 3482 日)</p> <p>・届け出を義務付け、担任がその状況を把握し適切指導に役立てる。</p> <p>イ・全学年生徒対象部活動紹介を継続実施する。 (全員体験入部 2 日) 1 年生の部活動加入率 80%を実現する。</p> <p>ウ・学校教育自己診断の生徒項目に「校内美化に努めている」を追加し、肯定的回答 80%をめざす。</p> <p>・31 年度 4 分掌構成にし、責任のある計画・立案・実施を行うための準備。</p> <p>・学年・分掌・職員会議は基本月に一回とする。</p> <p>・期日を守り主幹者の時間ロスをなくす。</p>	
--	--	---	--	--

<p>3 進路保障</p>	<p>(1) 基礎学力を身に 着け、発展的学力を 充実させる取組み</p> <p>ア 公開授業・研究協 議を充実させた授業 改。</p> <p>イ「主体的・対話的 で深い学び」の探 求・実践・充実</p> <p>(2) 希望進路の実現 をめざし、高いモチ ベーションを維持す るための取組み</p> <p>ア 進路指導部主導 型の進路指導体制構 築</p> <p>イ 社会で役立つ資 格等を取得するた めの取組みと、進学 に向けた英語、数学、 国語の進学講習の充 実</p>	<p>(1)</p> <p>ア 研究授業、公開授業、授業見学を計画的・ 組織的に実施。各学期に1度。</p> <p>イ・教育産業が実施する学力診断テストを継 続し、生徒の学力を定点観測し、生徒のモチ ベーションを上げるとともに、教員のスキル アップの材料とする。</p> <p>・大学と連携を図り「主体的・対話的で深い 学び」の校内研修を実施する。2回計画。</p> <p>(2)</p> <p>ア・計画的な進路指導と、保護者懇談等を通じ ての情報提供を積極的に行う。</p> <p>・大学・短大進学、就職・公務員・専門学校、 看護医療の4つの係に担当を明確化し、学年 団への指導と進路希望別に生徒への直接指導 を行う。</p> <p>イ・積極的に実用英語検定を受験させる。(1 年生は全員必須) またそのための学習の機会 を設ける。 ・生徒・保護者への周知・指導強化。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己 診断における授業満足度を 70%にする。(平成29年度は 38.4%)</p> <p>イ・学力判定指標D3の割合 を10%下げ全体の15%以下と する。 (平成29年度は15%減)</p> <p>・職員研修参加率95%を 実現する。 ・平成31年度生徒対象学校 教育自己診断で「授業が充実 している」回答80%とする。</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断にお ける「学校は将来の進路や職 業について、適切な指導を行 っている。」について平成30 年度は90%を目標とする。 (平成29年度 79.1%) ・卒業時進路未決定者0(ゼ ロ)実現</p> <p>イ・平成30年度は実用英語検 定2級1名準2級10名3級 40名を実現。 ・資格取得者・検定試験合格 者を500名にする。(平成29 年度はのべ652名)</p>	
-------------------	---	---	--	--

<p>4 地域に根差し見守られ、地域に貢献できる学校づくり</p>	<p>(1) 平成 29 年度入学者選抜志願者確保</p> <p>ア 「チーム成城」での組織的な情報発信</p> <p>イ 地域に見守られ、地域とともに成長する学校づくり</p>	<p>(1)</p> <p>ア 「チーム成城」での組織的な情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問を維持し、本校の実践内容を広く知ってもらう。 ・学校説明会や地域における説明会の管理職を中心に組織的に取り組み、経験の浅い教員にも経験を積ませる。 <p>イ ・地域の諸機関・事業所との交流・連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭・体育祭の地域等への門戸開放を一層進め、内容の充実を図る。 	<p>(1)</p> <p>ア ・中学校訪問 150 校実施を組織的に取り組み、強化しそれを維持する。 (平成 29 年度 190 校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学 2・3 年生徒・保護者・中学校教員等を 6 回開催し、計 800 名の参加を集める。 (平成 29 年度は生徒・保護者向け 6 回約 792 名) ・平成 30 年度入試入学者の第一志望での入学者数をアンケート調査実施。80%をめざす。 <p>イ ・広報活動の充実。 成城ニュースを積極的に発行し、玄関前に掲示するとともに、了解の得られた地域や中学校へ掲示願う。HP の充実。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の祭り、自治体の催し物への積極的参加。 (平成 29 年度は吹奏楽部が福祉施設へ慰問。軽音楽部が餅つき参加) ・文化祭・体育祭に合わせて 1000 名以上の来場者を迎える。(平成 29 年度は 1061 名) 	
---------------------------------------	---	---	---	--